



箱根旧街道一里塚

箱根旧街道  
一里塚

2003  
三島市教育委員会

## 一里塚とは何か

一里塚とは、街道沿いに距離の目安として築いた塚のことで、その原型は戦国時代にありましたが、徳川家康が慶長九年(1604)に江戸日本橋を起点に築造を命じたことが有名です。一里(約3.9km)ごとに作ったので一里塚と呼んでいますが、実際の距離には多少のズレがありました。

塚の大きさは五間(約9m)四方と定められていましたが、高さや形には決まりが無く、方形や円形のものがありました。塚の上には目印となる榎・松・楓・樺等の木を植えました。目印の木に榎が最も多い理由は、「榎が深く広がるので塚が崩れにくくなるから」と言われています。

こうした一里塚は江戸時代の旅人にとって距離を知る絶好の目印でした。ところが交通機関の発達と共にじゃま物扱いされるようになり、道路の拡張によって片側あるいは両側の塚が削られて消滅しました。しかし最近では歴史の価値が認められ、各地で一里塚の復元整備を行っています。

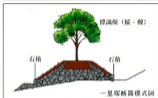
## 一里塚の構造

一里塚の発掘調査はこれまでに数例しかありませんが、神奈川県相模野では東海道相模野一里塚の発掘調査を平成9年に実施し、その結果を元に保存整備事業を行っています。

相模野一里塚は直径約5間(9m)の円形に石を積み、内部に礎を詰めた上に土を盛った構造でした。石積みは最大で幅90cm、高さ60cm、柱の長さ55cmの石材を2～3段積んでおり、街道側の最も高い所で1.5m、山側の低い所は50cmでした。これは高さを調整すると同時に、人の目に付きやすい街道側を意識的に立派に作った結果と考えられます。石積みの中に詰める礎は、下に大石のものを入れ、上に行くに従って小石になる様にして、排水を良くする工夫をしています。

また、表土層の盛り土は1m程度で、突き固めた様子はありませんでした。そのままでは土が崩れてしまうので、浮世絵等に描かれているように表面には芝状の植物を植えていたようです。そして塚の頂上は直径2m程度の平場になっていて、この部分の盛り土は特に深く礎がほとんど入っていませんでした。これは塚の上に植えた木の生長を考えてのことと推測されます。木の種類は北塚が榎、南塚が樺であったことが江戸時代後期の役料『新編相模国風土記』に記されています。

他に、東広島市の山陽道日向一里塚の発掘例があります。日向一里塚の北塚は直径約6m、高さ1.7mの円形で、周囲の石積みは1～3段でした。東海道相模野一里塚の約3分の2の大きさですが、基本構造はほとんど一緒です。



にしきが いちり づか  
**錦田一里塚**

位 置 北塚 三島市谷田字初音ヶ原 1726-1 地丈  
 南塚 三島市同原々谷字駒窪 665-1  
 交 通 J 東三島駅から箱根登山バス元龜御行き  
 11分、バス停「初音入口」下車徒歩5分。

バス停「初音入口」から徒歩本沿いに箱根方面  
 に約300m上ると、錦田一里塚は国道1号を挟ん  
 で南北に二基一対あります。

南塚は約10.5m×10.2mの楕円形で、高さは



錦田一里塚・北塚

約2.5mです。塚の上には樹が生えています。北塚は  
 約11.1m×9.7mの楕円形で、高さは約2.5mです。  
 塚の上には榎と赤松が生えています。江戸時代末期天  
 保十四年(1843)の記録『東海道宿村大帳』には、  
 南塚は榎、北塚は松と書かれています。

一里塚が元の形のまま一対残っているのは、静岡県  
 内では錦田と富士川町岩崎の二箇所だけで大変貴重で  
 す。錦田一里塚は大正11年3月8日に国の史跡に指  
 定されました。



『東海道分間尾形図(1806年完成)』より「谷田村部分」 東京国立博物館蔵

画面中央に錦田一里塚が描かれており、その両側に松並木が描かれています。塚の上に複数の木が描かれて  
 いますが松以外の木の種類はよく分かりません。現在は街道部分が国道1号になっています。

# やまなか いちり づか 山中一里塚

位置 南塚 西南町委原

北塚 道成

交通 J&三島駅から箱根登山バス元箱根行き  
32分、バス停「接待茶屋」下車徒歩1分。

バスの「接待茶屋」から旧街道を三島方向へ下  
ってすぐ左側に山中一里塚の南塚がありますが、  
北塚は残念ながら残っていません。

南塚は約 12.7 m × 10.9 m の楕円形で、高さは



約 2.0 m です。塚の上にはアセビやツツジ等の木  
が生えていますが、これらの木々は昭和の前半に  
植えたものです。『東海道宿村大興産』には塚の上  
に木は無いと書かれています。

また国道1号を挟んで一里塚の東側には、江戸時  
代末期に江戸の商人加勢屋與兵衛が興した接待茶  
屋がありました。途中で経営者が変わりましたが、  
昭和45年まで峠を越える旅人に無料で煎茶の接待  
をした事で有名です。



『東海道分間距離図(1806年完成)より「山中部分」東京国立博物館蔵

一里塚の右(箱根)側に杉並木、左(三島)側には数種の植物が植かれています。南塚の上に複数の英木が  
植かれています。種類はわかりませんが、現在は一里塚の箱根側に国道1号が通っています。

うきはら いちり 塚  
笹原一里塚

位置 南塚 三島市菅原新田字水呑300-1 地先  
北塚 消滅  
交通 JＲ三島駅から箱根登山バス箱根行き  
23分、バス停「笹原」下車徒歩2分。

バス停「笹原」から箱根旧街道石畳を箱根方面  
に約100m上ると、右側の一段高くなった林の中  
に笹原一里塚の南塚がありますが、北塚は残念な  
がら残っていません。



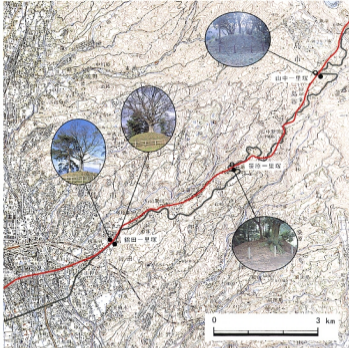
南塚は約14.2m×13.8mの楕円形で、高さは  
約2.5mを測り、塚の上にはシイ等の木が生え  
ています。しかし『東海道宿村大観相』には、塚  
の上の本は松と書かれていますので、これらの木は  
明治時代以降に植えたものと考えられます。

また一里塚北側の箱根旧街道石畳は、三島市が  
整備したもので、江戸時代の景観を留めています。  
箱根峠から菅原までは石畳が良好に残っており、  
ハイキングコースとしても最適です。



『東海道分限絵巻図(1806年完成)』より「笹原新田部分」 東京国立博物館蔵

一里塚の右(箱根)側に松並木、左(三島)側に菅原新田の集落が描かれています。一里塚の上の本は松で  
す。現在は絵巻の松並木と集落の間に国道1号が直角に交わるように通っています。



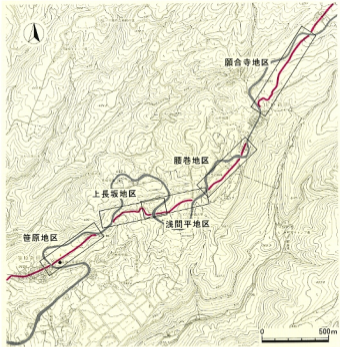
「東海道分限幅地図」より「箱根一里塚」  
一里塚の形や回りの石組み、塚の上の木の様子などがよくわかります。  
東京国立博物館蔵

〔参考文献〕

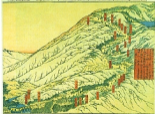
- |                       |          |
|-----------------------|----------|
| 『静岡県歴史の道—東海道—』        | 静岡県教育委員会 |
| 『箱根旧街道箱根一里塚保存整備事業報告書』 | 箱根町教育委員会 |
| 『神奈川の東海道(下)』          | かなしん出版   |
| 『東海道箱根峠への道』           | 中部建設協会   |

### 箱根旧街道一里塚

発行年月日 平成 15 年 3 月 26 日  
 編集・発行 三島市教育委員会  
 〒 411-0858  
 静岡県三島市中央町 5 番 5 号  
 TEL. 055-983-2672 FAX 055-972-3304  
 E-mail : bunkei@city.mishima.shizuoka.jp  
 印 刷 大和印刷株式会社



『東海道五十三次之内箱根山中ヨリ三島口至風景』



『東海道五十三次之内箱根山中ヨリ三島口至風景』

『東海道五十三次後景』より熊野会所蔵

＜参考文献＞

- |                  |           |
|------------------|-----------|
| 『静岡歴史の道 東海道』     | 静岡県教育委員会  |
| 『発掘された箱根旧街道』     | 三島市郷土館    |
| 『箱根旧街道石段と杉並木』    | かたしんブックス社 |
| 『箱根旧街道石段整備事業報告書』 | 三島市教育委員会  |

箱根旧街道石段—整備事業の概要—

発行年月日 平成13年3月30日  
 編集・発行 三島市教育委員会  
 〒411-0858  
 静岡県三島市中丸町5番5号  
 TEL 0559-83-2672 FAX 0559-72-3304  
 E-mail: boxake@city.mishima.shizuoka.jp  
 印刷 大和印刷株式会社